想い出のわが母校

□ 町田第一中学校 □

憧れの制服を着て入学したのは昭和三十八年四月。校庭に張られた紅白の幕、風の悪戯の中で行われた入学式、改築された鉄筋校舎と木造校舎、周りには畑もあり少しづつ高いビルが建ち始めていました。

生徒数も多く、一クラス四十人で十クラス、休み時間の廊下は大変賑やかでした。渡り廊下には購買部があり、お昼のパンと牛乳の注文、文房具から体操着まで販売しており、普段は広いと感じる校庭も、放課後部活が始まると一変して狭くなるのです。バスケにバレーボール、野球にテニス、技の宝庫器械体操部、その間を走り抜く陸上部員、少ない場所を見つけて楽しそうに話し込む友達同士、南側は一言、「俺について来いだよ」と、まさに青春ドラマそのものでした。

佐藤悦子

目指した一中の魔女

してくれる先生、怖い話の好きな先生、家に来いと誘う先生、本当に楽しい時間でした。

私はバレー部に入り練習の毎日、でも試合は出ると負けの連続。サーブのボールは何度となく町田街道に消えたものです。

そんな私達に感動を与えてくれたのが、東京オリンピックでのバレーボールの金メダル。そしてあの「回転レシーブ」、早速私達も練習するのですが、そこは土のコート、全身泥だらけ。この時は早く「体育館が出来ないかな」と思ったものです。二中の魔女」を目指した私達の細やかな頑張りに、先生も一生懸命指導してくださった結果、武相大会で四回戦か勝つことが出来ました。喜んだ私達に先生は一言、「俺について来いだよ」と、まさに青春ドラマそのものでした。

体育祭では爆笑の仮装行列を楽しみ、市民球場の中を三周したマラソン大会ではプールを狙う人が続出。原町田にあった市民プールへ行っての水泳指導、帰り道はみんなへトヘト。修学旅行では奈良の若草山で台風の眼が通過のおまけ付き。

通far昔に母が教員生活を送り、三人の子どもも学んだわけです。母は、平成九年に創立五十周年を迎え、記念に贈られた校歌のプレートは立派な体裁に飾られ、見る度に懐かしく口ずさんでしまう私です。

昭和38年当時の町田一中校舎（写真上）。木造と鉄筋校舎が混在している。（下）は武相大会で活躍する当時の一中の魔女たち。

町田の野鳥

「白鷺」という語がサギの呼称として普通に使われる。そのためかサギは白い鳥だと思われがちである。しかし、クロサギという真っ黒なサギもいるし、アオサギのように青灰色に見えるサギもいる。自然は複雑である。

アオサギは町田で通年普通に見られる鳥ですが、数が少なく、田んぼや河川で生活しているため分布も偏っていません。出会う機会の多い野鳥グループが現場から実況中継である。「クロツルだと思ったらアオサギだった」「大きいです」「はい、ネズミ色で大きいです」アオサギだろうと私は想像した。「くちばしが長い」、羽根がひらひらしてません」「ないです」「ツルは頭の上に赤い所がありますか」「黄色のようです」クロツルの足は黒が普通で黄色ではない。しかし、観察者は納得させないといけない。「その鳥飛びませんでしたか」「ずっと歩いています」「飛んだら始めたばかりの仲間しおばさんグ